

食欲・スポーツ・読書・芸術と、何をするにしても最適な秋ですが、十分に満喫するいとまもなく、気づけばもう冬。インフルエンザも例年より早めに流行しているとのこと、手洗いやうがい、十分な睡眠をとるように心がけましょう。

現在会員登録数3,201人さま。次号は12月20日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 講演会「紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える」参加者募集

講師：浅岡 靖央 さん（児童文化研究者、白百合女子大学教授）

日時：11月30日（土）午後2時～4時

会場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

定員：60人（申込先着順） 参加費：1000円

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

後援：大阪府立中央図書館

助成：子どもゆめ基金助成活動

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#kamishibaikoenkai

● 連続講座「幼い子どもの文学を考える」の報告集を販売しています

昨年度12月～2月に開催した三宅興子さんの連続講座「幼い子どもの文学を考える」の報告集。英米の歴史を中心とした幼年文学の歴史、渡辺茂男作品と松岡享子作品を中心に幼年文学について考えるなど、全3回の講演を記録しています。

発行：当財団 2019年11月 A4判 97頁 1200円＋税 詳細は ↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html#hanbai

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コ ラ ム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Keiko's Talk

『氷室冴子とその時代』 嵯峨景子/著 小鳥遊書房 2019年10月 対象年齢：大人

概要：氷室冴子のデビュー前から亡くなるまでの執筆活動の変遷を作品、掲載された媒体、読者の反応等の資料、著者の作品解釈から浮かび上がらせた本。

Y：この本を執筆されたきっかけは何ですか。

K：『コバルト文庫で辿る少女小説変遷史』（彩流社、2016年）執筆の過程で、次は氷室冴子をやらねばと思ったことです。氷室冴子といえば『なんて素敵にジャパネスク』（全10冊、集英社、1984～1991）ばかりが語られがちですが、それだけではない多彩な仕事を総合的に論じた本を作りたかったのです。

Y：目標どおりの本が出来たと思って読ませていただきました。一番苦労されたのは？

K：90年代後半以降を取り扱った第10章です。この頃、氷室さんは作家としての方向性やプライベートなどで悩むこともあったのだらうと思います。とはいえ、この時期を語ろうとしても結局推測になってしまうので、踏み込むことは極力避けました。生身の人物像に迫った評伝ではなく、氷室冴子の仕事を同時代の動きと関連づけて分析する本であることを意識し、実証的な記述を心がけました。

Y：氷室作品を読むだけでなく、後年の作家への影響などを含めて周辺資料を調べ尽くして書かれているところがおもしろかったです。

K：そこは自分の持ち味なので頑張りました（笑）。活字化された資料のみでなく、今回は初めて取材という形で氷室さんの関係者にお話をうかがいました。

Y：この本でもう一つおもしろかったのは、嵯峨さんの氷室冴子作品に対する鋭い読み方でした。

K：本文ではそれぞれの作品に対する個人的な思い出とは距離を置き、作品を客観的に分析するよう心がけました。その分、個人的な読書体験はあとがきのなかで存分に語っています。

Y：情報量がたっぷりでしたが、それでもきっと書き尽くせなかったことがたくさんあったんだろうなと思いました。

K：氷室冴子の作品が現状では書店にあまり並んでおらず、なかなか再評価が進みにくいなかで、自分がすべきことは何かを第一に考えました。再評価が進めば、今回私が避けた氷室さんのパーソナルな一面に迫る手法など、違うアプローチも可能になるかもしれません。そのためにも、これを最初の一步として今後も氷室冴子研究を進めていきたいです。

Y：この本の魅力を一言でお願いします。

K：帯の「この本を開けば、氷室冴子にまた会える」という言葉どおり、氷室冴子について本格的に論じた初めての本です。また巻末附録として、氷

室さんが大学時代に執筆した少女マンガ論の手書き原稿（初公開資料）も収録しています。氷室冴子がエッセイのなかで語ったフェミニズムやジェンダー、母娘関係や独身で仕事をする女性の生き方についての言葉は、今の時代にも刺さるものです。こうした一面もぜひ知ってもらいたいです。

Y：氷室冴子の作品の背景を知り、時代の中での作品の変遷を知ったことで、作品を読み直したくなりました。また、読んだことのない作品も読んでみたいと思いました。『コバルト文庫で辿る少女小説変遷史』『氷室冴子とその時代』の2冊は、児童文学史にとっても少女文化史にとっても欠くことのできない本だと思います。また、新しい視点でこの分野を掘り下げてくださるのを楽しみにしています。

* 今回のゲストは児童文学研究者でライターの嵯峨景子さん（K）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第51回「蛙のゴム靴」

雲見と「さよならね」

前々回、前回（当メルマガ NO.109、110）の「畑のへり」「カイロ団長」について、これも、蛙の童話です。登場するのは、カン蛙、ブン蛙、ベン蛙の三びき。

「この頃、ヘロンの方ではゴム靴がはやるね。」「僕たちもほしいもんだな。」——三びきは、そう言い合います。「ヘロン」は、蛙語で人間のこと。そして、カン蛙は、かつて恩を売ったことのある野鼠にゴム靴の手配を頼み、野鼠は、ひどく苦勞して手に入れてくれたのでした。ブン蛙とベン蛙は、カン蛙のゴム靴をずいぶんうらやましがり、美しい蛙の娘のルラも、ゴム靴に心をひかれて、カン蛙をお婿さんに選ぶのです。

ブン蛙とベン蛙は、カン蛙のことがいまいましてたまりません。二ひきは、結婚式の前にカン蛙を散歩に連れ出して、萱の刈跡を歩き、ゴム靴をめっちゃめっちゃにしまいます。カン蛙はゴム靴をうしない、ゴム靴に気をとられていたルラ蛙も結婚相手を見損ないそうになりますけれど、それでも、結婚式は、盛大に行われます。ブン蛙とベン蛙は、新婚旅行についていて、畑の麦を干した杭の穴にカン蛙を落としてやろうと考えますが、三びきとも足をとられて、杭穴の泥水の底に落ちてしまいます。死にかけた三びきは、ようやく、ルラ蛙のお父さんたちに助けられて、そののち、ブン蛙とベン蛙は改心したというのです。

びっくりする結末ですが、初期形は、「蛙の消滅」という題、花嫁はてんとうむしで、三びきは死んで、生き返りません。物語が無理に打ち切られてしまう感じは、さらに強まります。

「蛙の雲見」というタイトルのメモも残されている作品ですから、読者も、蛙たちの雲見を楽しめばいいのでしょうか。「どうも実に立派だね。だんだんペネタ形になるね。」「うん。うすい金色だね。永遠の生命を思わせるね。」「実に僕たちの理想だね。」——蛙たちは、こんなふう雲の峰をめでののです。「ペネタ形」は、平たいことで、たいへん高尚です。

繰り返される「さよならね」という蛙たちのあいさつも耳に残ります。作品の語り手は、「「さよならね」ももう鼻について厭きて参りました。」というのですが。(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『新編 風の又三郎』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 5

いきなり ロッタは、だまって その はさみを とりあげると、セーターに 大きな あなを きりぬきはじめました。

「おまえは、さしたり ひっかいたりするんだもの、こうされたって あたりまえよ。」

(『ロッタちゃんの ひっこし』アストリッド・リンドグレン/作 山室静/訳 偕成社 1966年12月初版 1995年7月改訂 p29-30)

幼い頃、ロッタは私のあこがれでした。冬に徳利のセーターを着せられて、あまりに首がちくちくするので、泣いて拒否したことを覚えています。私にはセーターをはさみで切る勇気はありませんでしたが、ロッタはやってしまいます。それも、ロッタの理屈では、「さしたり ひっかいたりする」悪いやつだから、やっつけるのです。

とはいえ、はさみで切ってしまった後には「きゅうに しんぱいに なってきま」す。そして、「そうだ、この あなは、いぬが あけたんだと いいましょ。」と、ぶたのぬいぐるみのバムセに言いきかせます。ユニークな発想に笑いつつ、悪いことや失敗をしたとき、何とか取り繕おうとする気持ちに強い共感を覚えます。

このイライラは、実は、夢で兄と姉がバムセをぶったことから始まっています。夢の中であれ、兄と姉にいじめられ、次に母にちくちくのセーターを着せられそうになり、拒否して「はだかで いる」というと「かってに しなさい」と言われ、ココアを飲むように言われて黙っていると、どなられ、「ココアを のんであげても いいわよ。」と言うと、無理に飲まなくてもいいと言われ、服を着るように言われる。イライラがロッタの中でどんどん膨らんでいる様子わかります。一つうまくいかないと、悪循環になってもう戻れなくなる様子は幼い頃、誰しもが経験することです。

そして、ロッタはついに、隣の家のもとの2階に家出をするのです。ここも私があこがれたところでした。家出は快適で、食べ物をもたらすのに、2階からひもをつけたかごを下して食べ物を入れてもらうというアイデアはずばらしく、二段ベッドを使って妹と家出ごっこをしたのを覚えています。

私のセーターに関して言えば、少し大きくなると、同じセーターが着られるようになりました。成長したことを喜ぶと同時に、敏感な皮膚感覚を失ったことを少し寂しく思いました。(Y)

《4》 行って来ました！

京都文化博物館で来年1月13日まで開催されている巡回展「みんなのミュシ

「ミュシャからマンガへ線の魔術」に行ってきました。この展覧会ではミュシャの幼少期の作品、蔵書、収集した工芸品、素描画、写真、ポスター、ミュシャの影響を受けたイギリスやアメリカのグラフィック・アート作品、レコードジャケット、アメリカンコミック、日本の明治期の文芸誌、マンガ家やイラストレーターの作品など約 250 点が展示されています。

前半はアール・ヌーヴォーを代表する芸術家アルフォンス・ミュシャ（1860-1939）の生涯がわかりやすく紹介されています。チェコに生まれたミュシャは、1878 年、プラハの美術アカデミーに不合格になり、働きながら美術を学び、後にパトロンを得てミュンヘンやパリの美術学校へ通います。ところが、1889 年にパトロンから突然援助を打ち切られ、本格的に挿絵画家として働き始めることとなります。ミュシャは挿絵を美術作品ととらえて、コンセプトを考え、妥協しないでデッサンや構図をきわめていったということが、数々の習作からよくわかります。

ポスター作家として知られるきっかけとなった女優サラ・ベルナールの劇場ポスター、タバコやお酒、銀行などの宣伝用、観賞用のパネルなど、優しい色合いの縦長の大きなポスターがずらりと並んでいます。美しい女性の背後に植物や花や星の装飾的な輪が描かれ、ドレスの裾やうねるような髪が右下方向に流れるような Q 型の構図がミュシャの特徴だそうです。細部まで美しく、見飽きませんでした。

後半は「ミュシャ」から影響を受けた芸術が紹介されています。日本への影響はまず、明治時代の「明星」や「新声」等の雑誌や『みだれ髪』の表紙などにありました。しかし、その後ミュシャは 50 年以上世界から忘れ去られ、1963 年のロンドンで開催された回顧展をきっかけに再評価されます。水野英子、山岸涼子、松苗あけみなどの少女マンガ家は、ミュシャの影響を受けた第二世代と言え、曲線美や装飾性に少女マンガの美しさの源流を見た思いがしました。（K）

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介
■ ----- ■

● 資料展示「魅せます！紙芝居展」
国際児童文学館所蔵の印刷紙芝居を中心に、1930 年代から現在までの歴史をたどります。
会 期：開催中～12 月 28 日（土） 休館日あり
会 場：大阪府立中央図書館 展示コーナー、国際児童文学館（東大阪市荒本）
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html
※イベント情報をお送りください。当財団 HP に掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント
■ ----- ■

今号の【1】お知らせで紹介しました、連続講座「幼い子どもの文学を考え

る」の報告集を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.111 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は12月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

—|—|—|—|—|—|—|—|—|—|

今年もあと一月余りで終わり。気持ちだけではなく何かとあわただしい昨今ですが、年末恒例のイベント(素直に忘年会と言えば良いものを)の日程調整にも一苦労。「歳を考えてね」との連れ合いの言葉が耳の奥に残りながらも、久しぶりの顔合わせに思わず杯が進む季節です。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

